

氏名 (生年月日)	扇 内 秀 樹 オギ ウチ ヒデ キ
本 籍	
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙第 197号
学位授与の日付	昭和50年 4月18日
学位授与の要件	学位規則第 5 条第 2 項該当 (博士の学位論文提出者)
学位論文題目	高血圧症患者の口腔外科的処置の全身的影響およびその可能性に関する研究
論文審査委員	(主査) 教授 織畑 秀夫 (副査) 教授 渡辺 宏助, 教授 久保田 くら

論 文 内 容 の 要 旨

〔研究目的〕

歯科口腔外科外来を訪れる患者のうち、いわゆる高血圧症に罹患しているものは意外に多いが、従来より唱えられている抜歯禁忌症といった観念が依然として有力で、心疾患患者とともに高血圧症患者は相対的禁忌症として注意をうながされている。しかし高血圧症患者の如き系統的疾患を有する者を被験者としての研究はほとんどなく、多くの臨床家にとって高血圧症患者の口腔処置は Risk が予想されるという危惧のみで、いたづらに避けられる傾向にある。

そこで著者は口腔外科手術中最も頻繁に行なわれる抜歯をとりあげ、高血圧症患者の口腔外科的処置時の指尖部脈波、血圧、脈拍数等に関し、全身的疾患を有していない患者と比較して、変動差があるか否かを、術前、術中、術後にわたって経時的に検討を行なった。

〔実験方法〕

指指尖脈波、心電図、精神電流現象 (GSR) の誘導には三栄測器社製の多目的用途記録監視装置 141—6 を使用し、最高血圧の測定には島津製作所製の自動最高血圧連続測定装置 SCS—301 型を用い諸現象の同時記録を行なった。

また、脈拍数は心電図上から分析した。

〔実験結果〕

1) 指指尖部における脈波については、脈波持続時間より波高に変化が強く現われた。波高は対照および高血圧症とも減少例が多く、高血圧症は対照に比し、変化がより強い傾向を示した。

2) 脈拍数は各処置時約半数が無変化で、変化するも

のでは増加例が多い。また高血圧症は対照に比し、変動度は小さく、重症度が増すにしたがい小さくなる傾向を認めた。更に高血圧症患者では、対照にない頻脈が術前より出現する例があり、各処置時に高い GSR の出現を認めていることから、口腔侵襲時に精神的条件の加担を認める。

3) 高血圧症患者は各処置時、ほとんどが血圧上昇を呈し、不快症候発現も急激な血圧上昇とともに惹き起こされている。また口腔侵襲に基づく最高血圧の変動は一過性であるが対照と比較してより強く上昇性に現われる傾向をもつ。

4) 最高血圧の最大上昇値は対照では 180mmHg で、高血圧症患者は 240mmHg を呈した。高血圧症患者の血圧変動の Merkmal は 190mmHg とし、それ以上の上昇を認めた場合、処置を中断し、血圧の安定を待ち、処置を再開すべきであると思われる。

5) 口腔処置による侵襲度は、局麻時、抜歯時、切開時の順で強く、一刺激において対照では最初の侵襲がすぐ回復するが、高血圧症患者では更に加重される傾向にあり、また術後も侵襲が残存し回復の遅延を認める。

以上の結果より、高血圧症患者の抜歯に対し、大多数の症例は重症度Ⅲ度まで手術可能と思われる。しかしその処置にあつては、できるだけ無痛的に、不快な衝撃を与えず、不安や恐怖を取り除き、精神的な安静をはかる事が必要であり、回数を重ねて観血処置を行なう場合、難易度の低いものから行なつた方が良いと思われる。また術後においても血圧の異常な上昇や下降、不整脈、頻脈の発症、局所の出血等に細心の注意を払うべきである。

論文審査の要旨

本論文は高血圧患者における口腔外科的処置の抜歯を行なった際の患者の示す反応を検討し、種々の新知見を得ており、またそれによつて高血圧患者における口腔外科的処置の安全性を認識せしめたことは学術上価値あるものと認める。

主論文公表誌

高血圧症患者の口腔外科的処置の全身的影響およびその可能性に関する研究。

日本口腔外科学会雑誌 第20巻 第6号 564
～598 (昭和49年12月15日発行)

副論文公表誌

- 1) 重複瘻の1症例
日本口腔外科学会雑誌 19 (1) 63～68
(1973)
- 2) 16091 R.P. (Metiazinic acid) の臨床試用経験
日本口腔外科学会雑誌 19 (1) 57～62
(1973)
- 3) Indolor C の口腔外科領域における試用経験.
日本口腔外科学会雑誌 18 (3) 373～379
(1972)
- 4) GP45 840 の口腔外科領域における臨床使用経験.
日本口腔外科学会雑誌 18 (3) 353～357
(1972)
- 5) Ledermycin Dry syrup の口腔外科領域における適用について.
日本口腔外科学会雑誌 16 (3) 273～278
(1970)
- 6) 口腔外科領域における Josamycin の使用経験.
日本口腔外科学会雑誌 16 (4) 381～386
(1970)
- 7) 乳児の歯肉にみられた Multiple Epidermal inclusion cysts の1例について.
日本口腔外科学会雑誌 16 (1) 46～48
(1970)